

此書昔河内店に授けし今藤原上院  
 在り常以爲法取皆年若く論其  
 實與高者致し愛し常寧同書に傳  
 萬成身行知く利過之三次海  
 美年一法今一書漢書年若く  
 取書一二年一度死擄年若く  
 年若く是年若く年若く漢書年若く  
 年若く年若く漢書年若く漢書年若く  
 人言月取及少年一法今藤原上院  
 濟定同格時書年若く漢書年若く

店漢度作法 孫 吳見之事

此推書讀時極中集行候  
 之札釋張り少届相守之節候  
 若作候式法合候我候御  
 出出のりひに一卷店之指本

第1図

矣  
 李方と云ふより  
 之けり利の二、免有

哉也抑守ら利もともて定まら  
 之のせり李に書さしんや

一為人君止仁為人臣止敬  
 為人子止孝為人父止慈  
 與國人交止信

矣  
 今との書甘之度故、何女彼ツワ  
 仍子掛く彼ツワ大威候不、想表  
 今、高、二、二、銀、候、候、候、  
 候、候、候、候、候、候、候、候、

第2図



第3図

口 絵 伊豆蔵五兵衛の店則「店法度・作法并異見之事」

口 絵は「店法度・作法并異見之事」の写真で、第1図は史料冒頭部分、第2図は末尾部分、第3図は署名部分の拡大である。史料の概要・内容については、本誌史料紹介「貞享五年・伊豆蔵五兵衛「店法度・作法并異見之事」——伊勢商人の江戸店の店則——」を参照されたい。

(下向井紀彦)